

大口径補修（熱硬化）・ます補修（熱硬化）

5 大口径補修（熱硬化）…… 特殊箇所での施工実例

状況

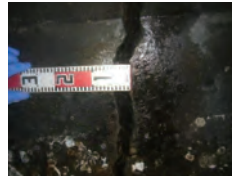
海岸沿いに敷設されているボックスカルバート1200×1000のクラック部分より、満潮時に多量の浸入水が確認され、その都度モルタルでの補修を行ってきたが、すぐに剥がれ落ちて浸入水が再発生すること。



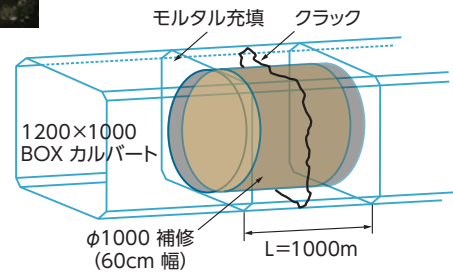
施工前(干潮時)



浸入水(満潮時)



クラック



対策施工例

クラック部分をモルタルで補修後、止水材の注入。通常はそのままモルタルによる表面仕上げとなるが、補修のために内径1000mmのボイド管を利用して、幅1mのモルタルでの補修充填を行い、内部に60cm幅の部分補修を施工することにより、モルタルの保護、および補強となる提案を行なった。

<施工写真> 下処理



止水材注入



注入完了



φ1000ボイド管を利用して型枠作成

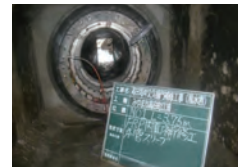


モルタル充填中



モルタル充填完了

補強工



完成

6 ます補修 … 特殊箇所での施工実例

状況

通常のます補修の施工に関しては、拡径時には、浮き上がり防止処置として、ウエイトをユニック等にて設置が必要になります。

<通常の施工例>



特殊なます設置実例



ますが塀や壁等で覆われている場合

対策施工例



ます(深さ0.9m) 補修施工後

<施工可能条件>

- 施工機が挿入できる程度の開口 (高さ55cm程度)
- 上部に浮き上がり防止のサポーターが設置可能な箇所